

## 第2章

### 教育課程

(保育所、幼保連携型認定こども園における全体的な計画)

# 1 教育課程(全体的な計画)の見方

第2章の教育課程(全体的な計画)では、小学校教育との接続を踏まえ、乳幼児期の子供に生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら0歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導方法を例示しました。

本教育課程(全体的な計画)のフォーマットの見方については、次の吹き出しのとおりです。

5歳児 1期 (4月～5月)	
<b>ねらい</b> ・新しい環境に自分から関わり、いろいろな遊びに取り組む。…略…	
<b>学びの芽生え</b>	<b>思考</b> ・動植物や自然現象に関心や親しみをもち、考える、試す、自然を…
	<b>言葉</b> ・保育者や友達に対して、自分の思いや考えを自分なりの言葉…
	<b>創造</b> ・体で感じたリズムや自分たちで考えた動きを伸び伸びと…
<b>人との関わり</b>	<b>協同</b> ・年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさ…
	<b>信頼</b> ・自分の気持ちを伝えたり、相手の話を聞いたりする。…
	<b>規範</b> ・新しい生活の中でのまきまりの必要性を感じ、保育者や友達と一緒に…
<b>生活習慣・運動</b>	<b>基本的な生活習慣</b> ・衣服の着脱など、自分で気付いて調整する。…
	<b>運動</b> ・すすんで戸外に出て、友達と体を動かして遊ぶ心地よさや…

・各時期の子供の発達を踏まえた成長の実現に向けたねらいを示しています。

・生きる力の基礎を育成する観点から、各時期に子供に確実に経験させたい内容を示しています。

・各時期の具体的な指導例を示しています。うち、◇印の付いている指導例は、実際の指導の詳細を示しています。

<指導例>  
◇ 年長さんになったよ 道線の喜びを味わう。

<援助のポイント>

<家庭との連携>

・保育者の援助や家庭との連携のポイントを示しています。

・生きる力の基礎を育成する観点から、子供に確実に経験させたい内容の視点に基づき、生活や遊びの中で子供が経験している内容を示しています。

具体的な指導例については、改訂版 p 29 以降を御覧ください。

「年長さんになったよ」  
5歳児 4月  
道線の喜びを味わう

**環境の構成**

- ◆ 生活の場を自分たちで整えているような機会の設定や物の準備をする。
- ◆ 幼稚園内のルール（道具や用具の扱い方など）の確認。種目や製作コーナーの置き場所を決めること、自分たちでできると考えたこと（飼育動物の世話、昼食の挨拶、昼食後の保育室の掃除など）に取り組む時間を設ける。
- ◆ 必要な用具などを見えやすい所に置いておく。
- ◆ 年下の子供の気持ちを考えた自分たちの経験を振り返り、自分が自信のあることを考え、実際に後する機会を設ける。（朝の挨拶や遊びの片付けの伝い、園内走りなど）

**子供の姿**

<b>「もう、年長だもん」</b> 保育者が「うさぎの道線しようかな」とつぶやくと近くにいる子供が「手振ってあげようか」「私もやりたい」と言ってくる。「できるかな」「保育者が聞いてくれるよ」「前年度の年長さんになれたから、もう年長だもん」と張り切って取り組む。「私もやらせよ」とその様子を見て取り囲む子供が増えている。また、「こうやるんだよね」と友達同士で確認したり教え合ったりする様子が見られる。	<b>「年少さん大丈夫かな」</b> 幼稚園不安で泣き続けていた子供の様子をしばらく見ていた年長児がはげに泣き、「大丈夫だよ」と励ましながら、「これだよ」と道線を持ってきて、その子供の前に置いたりする。相手の気持ちを考えた自分なりに言葉かけたり行動したりする姿が見られる。	<b>「生活のルールを つくっていく」</b> 年長児に誘われて遊ぶようになった大型積木。大きくて一人で運ぶと危ないことに気付く。「二人なら運ぶね」「これから大丈夫」と二人で運ぶ。クラスで取り上げられたところから「二人で運ぶこと」が約束になる。遊びの中心や片付けの際は「二人一緒に運ぶ」と約束し声を掛けて運んだり片付けたりする。
--	---	---

**経験している内容**

- 飼育動物の動きや表情などに気付いたり親しみを感ずりたりする。
- 文字や数字、記号などに関心をもつ。
- 道具を安全に扱おうとする。

**援助のポイント**

- ◆ やってみたい気持ちや興味を持っていくように環境を構成したり、約束を確認したりする。年長になった喜びが自分たちでつくっていくという気持ちや大きくなっている自分たちの成長を周囲の大人から見ていくようになる。仲間になったよと保育室内で歌を上げ、必要感をもって話し合ったり共通理解したりしていく。自分たちで生活を営んでいるよと当番活動として導入し、当番活動中から、当番活動中という意識を育てる。
- ◆ 年下の子供のためにできることを見つけ、行動に導いていけるきっかけをつくる。年下の子供が困っている様子などについて、気付いたことを知らせ合う場面を設ける。自分たちがこれまで年長児がして来たことを振り返り、自分たちができることを具体的に伝えていく。また、関わったことで相手が好きやむかひな安心した姿を認めて、自信につながるようにしていく。
- ◆ 文字や数字、記号などへの関心を高めしていく。物の片付け場所や当番表などの表示に文字や数字、記号などを用いることで、生活の中で身近に感じ、関心をもったり遊びに取り入れられるきっかけにしていく。